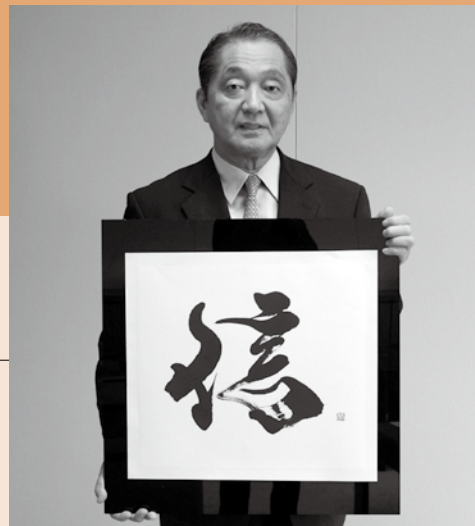


私の一文字「信」

副代表幹事
馬田 一

JFEホールディングス
相談役



人としても経営者としても「信」が不可欠

会員の方が思いを込めて選んだ一字に、書家の岡西佑奈さんが命を吹き込む「私の一文字」。第6回にご登場いただいたのは、馬田一副代表幹事です。

馬田 2000年に川崎製鉄で取締役になったとき、当時社長で、書をなさっていた江本寛治さんが「信」とだけ書かれた色紙をくださったんです。それがこの文字との大きな出会いでした。

岡西 渡されるときに何かお言葉はあったんですか。

馬田 色紙だけをくださったので、お亡くなりになった今では何を意図されていたのか、分からずじまいです。私は企業における「信頼」の意で書いてくださったのかなと解釈しました。川崎製鉄は2002年に日本鋼管と合併しJFEホールディングスになりました。それに当たって企業の基本ルールを作った際に、社員の行動規範を「挑戦・柔軟・誠実」の三つに決めました。この誠実が「信」だと思います。誠実には「人から信頼される」「自分が嘘をつかない」という2通りの意味があります。もう一つ、誠実に込めた思いが信念。「自分の思ったことを信じる」ことです。

岡西 大事なことばかりですね。

馬田 信念という意味では、正しいと思って一度決めたことは、人からどう言われようと貫かなければいけないと考えます。経営者としては耐えていくことも必要ですね。

広義の意味でも、人間全般として信がなければ意味がありません。最近、企業の不祥事が多いですね。昨年だけでも随分ありました。企業と経営者がユーザーや株主、社

会からの信を失うと、長い間積み重ねた地位を瞬時に失います。再発防止のためにルールを厳格にし、監視を強化しても不祥事は後を絶ちません。最後は人間の問題だからです。経営者は誠実でなければなりません。企業経営にとって「信」はなくてはならないものです。聞くところによると、「信」という文字は嘘をつかないという意味らしいですね。

岡西 そうです。「信」のにんべんは人が横を向いている姿で、^{つくり}旁の下は口、上は辛抱の「辛」。「辛」は刑罰の際に用いられる刃物の形の象形文字で、旁全体で「発言にもし嘘があるとすれば受刑することを誓う」ことを表します。口で嘘をつくことは簡単ですが、私は人の嘘は口ではなく、心にあると思っています。心をこの文字に入れたくて、口を少しハート形にしてみました。そして、馬田さんの芯の強さとたおやかさをイメージして書かせていただきました。馬田さんが信の大切さを実感されたのはいつでしょうか？

馬田 私は製造現場に20年くらいおりました。入社して6年で係長になりましたが、当時はまだ30歳くらい。そんな若手が経験豊富な方々の長となってグループを束ねていかなければなりません。この人間を信用できるかできないか、現場の人々は見えています。信用できないとなれば皆そっぽを向く。まさに「信」を見られているんですよ。

岡西 どういうところで判断されるんですか。

馬田 例えば、上司に言うことと下の人たちに言うことが違う。相手によって行動を変える。上司がいなくなった途端怠ける。言葉と行動に嘘がない人は互いに見ていれば分かります。それが信頼のベースとなるのです。若い時は、「信」が必要だなんて誰も教えてくれないから分からないですね。自分で身をもって覚えていくしかない。人としても経営者としても、「信」はとても大切なんです。

書家
岡西 佑奈

1985年3月生まれ。23歳で書家として活動を始め、国内外受賞歴多数。現代アート『青曲一そして始まりとしての紅畝』を展開。

